



# アトラクション(1)の ご紹介

## 下津井節



船人相手の女たちの酒席の騒ぎ唄。  
下津井は、幕政時代、瀬戸内海の交通の要所として栄えた。この唄は、瀬戸内海の島々や、山陽、山陰の港町、さらには山形県の最上川あたりでも唄われたことがあり、北前船によって各地へ持ち回られたようである。明治の終わりになって、鉄道の開通や帆船が機械船に代わると、港もさびれ、唄も唄われなくなった。昭和2（1927）年、毎日新聞社が観光地百景の人気投票をして、この地の鷺羽山が入選すると、「下津井節」に目を付けた町役場の高木恭夫、奥田吉次郎などが、今日の形にまとめあげた。

三世代の下津井節

正調下津井節 中田香(明治～大正)  
第18回下津井節全国大会 総合優勝

舟唄下津井節 木下辰雄(昭和)

とこはい下津井節 踊り(せとうち和楽)(平成)

瀬戸大橋音頭 江口力蔵 20周年 瀬戸大橋

三味線2名 尺八1名 太鼓1名